

## 資料 2

### 地域自治区振興事業の評価について【まとめ】

第 2 回（H20.6.27）第 3 回（H20.7.23）の検討結果から

浜益区民コミュニティ普及推進事業（区民カレンダー製作）

[ 評価の視点 ]

区民の一体感の醸成が図られたか？  
地域コミュニティの推進が図られたか？  
地域づくりに寄与したか？

配付は世帯毎ではあるが、製作回数を重ねる度に活用は全世帯員に広がりつつあり、今では生活必需品的な位置づけにある。（各家庭の共有話題）

製作にあたっては区内各種団体からの代表者等で構成する実行委員会が組織され、行政が各種行事や暮らしに役立つ情報などを提供し、区民がカレンダーの特色でもある懐古写真を提供するなど、官民連携による取り組みとなっている。

行政と区民との情報の共有により行政への関心（参加）意識、連帯感の高揚が図られるなど地域の一体感が育まれ、地域コミュニティの一層の推進による地域づくりに寄与している。

[ 事業継続に関する視点 ]

区民ニーズがあるか？類似事業など  
継続する妥当性があるか？  
代替になり得る事業がないか？  
課題や改善事項はあるか？

継続的な製作を望む声が圧倒的に多い。

官民連携による取り組みであり、一体感の醸成を図る観点からも継続することが妥当である。

中長期的な継続を考慮し、今後自主製作の道を探る検討をすることも視野に入れていく必要がある。

## 浜益区民スポーツフェスティバル事業（スポーツフェスティバル<夏・冬>開催）

### [ 評価の視点 ]

健康増進が図られたか？

地域住民の交流が図られたか？

<第2回>

- ・参加人数は少ないが毎回楽しみにしている子ども達があり、貴重なイベントである。
- ・数少ない運動と交流の機会である。特に冬場は運動不足がちである。
- ・具体的な成果が見えない。など

<第3回>

- ・無くするわけにはいかないのではないか。成果が無ければ成果が出るような工夫を。子ども達の健康増進を第1に考えるべきである。
- ・幼児から高齢者まで参加できる工夫を。高齢者は子ども達と遊べてさらに健康増進を。



参加者は固定されつつあるが、区民の健康増進と幅広く交流が図られる限られた貴重な事業である。

### [ 事業継続に関する視点 ]

区民ニーズがあるか？類似事業など

継続する妥当性があるか？

代替になり得る事業がないか？

課題や改善事項はあるか？

<第2回>

- ・1年でもやめたらずっとやめてしまう。浜益らしさ（趣向を凝らして）で継続して欲しい。
- ・雪像づくりなど広く（高齢者も）参加できるように趣向を凝らす。（冬季）
- ・スキー大会（冬季）だけでは高齢者の参加は難しい。
- ・役（実行委員）を降りた時点から自分も参加しなくなった。以前から無理にやっている雰囲気もある。近くの人しか参加しない。継続する意味があるのか。
- ・これから益々若い人、子ども達が減って高齢者ばかりに。喜ぶ人が誰もいなくなる。
- ・スキー場も無くなりスキー少年団の動向次第では。（特に冬季は少年団が主力）
- ・内容的、回数的に毎年やらなければならないのか。やるなら形を変えて内容も変える必要があるのでは。など

<第3回>

- ・若い人の意見では夫婦共働きであれば、たまの休みはゆっくりしたい。
- ・これまででなかった人でも出る工夫を。競技の内容にもよる。
- ・段々年を取れば出るのが億劫になるのは当然。出られる人だけでもいいのでは。
- ・これまでのスキー大会（冬季）がこれからはネックになってくる。
- ・気軽に参加できる仕組みは下から積み重ねるもの。完全に無くしないで何らかの形で行う。など



区民の健康増進と交流を図る観点からも幼児から高齢者まで幅広く参加できるように区民が一丸となり知恵と工夫を結集し継続することが重要であり、これらの取り組みから地域住民の一体感の醸成が期待できる。